

和歌山県スポーツ少年団軟式野球大会特別規則

和歌山県スポーツ少年団軟式野球専門部

1. 試合は6回戦とするが時間制を採用する。
 - A) 試合時間は1時間30分とする(回数はいわない)。優勝戦も同じ。
 - ① 試合時間を越えて新しいイニングに入らない。
 - ② 得点をリードしている後攻チームの攻撃中に試合時間を超えた場合はその時点で試合を打ち切る。
 - ③ 同点で、イニングを終了し試合時間を超えている場合は、延長戦を行わず抽選とする。但し、優勝戦は時間内、時間超えを問わず2イニングを限度に、特別延長戦を行なうが特別延長イニングを終了しても勝敗が決しない場合は抽選で勝敗を決定する。
 - B) 試合の延長戦は6回を終了し試合時間を超えていない場合のみ特別延長戦を2イニングを限度に行うが、A)の①、③を適用する。
- 1) 特別延長戦
継続打順とし前回の最終打者を一塁走者として、二塁の走者は前の打者とする。
すなわち無死1塁2塁の状態にて1イニング行い得点の多いチームを勝ちとする。
なお、勝敗が決しない場合はさらに継続打順でこれを繰り返すこととする。
2. 得点差によるコールドゲームは、5回以降7点差の生じた場合とする。
(但し優勝戦は除く)
3. 天候気象によるコールドゲームは5回終了をもって正式試合とする。
サスペンデッドゲームは採用しない。
4. 投手の投球制限を行う。
投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、1日70球以内とする。
(4年生以下は60球)
5. 2022年学童野球大会ルール改訂に伴いホームベースは一般サイズを使用する。
- *6. ①指名打者制度(DH制)を採用する。ただし、「大谷ルール」は採用しない。
②投手の色、補給面、背面、ウェブは2色まで可ただし、白/グレー/色基準14番より薄い色の使用は禁止。
③審判のパンチアウトおよびストライクスリーのオーバーアクションの適用。

※抽選方法

1. 審判員は、試合終了時に出場していた両チームの選手を挨拶の状態(守備位置順)に整列させる。
2. 抽選用紙に○印・×印を記入した各9枚を封筒に入れ、球審が先攻チームより1枚ずつ交互に選ばせる。
3. 二人の審判員が両チームの監督立会のもと開封し、○印の多い方を抽選勝ちとする。
(抽選結果を相手側の監督にも確認を求める。)
4. 勝敗が決した後、全選手を整列させ、球審が結果を本部席に告げ両チームキャプテン握手の後「ゲーム」を宣告する。

※出場チーム確認事項

- ①. 大会における優勝チームは全国スポーツ少年団軟式野球交流大会近畿ブロック予選大会に出場する。
(注)[全国交流大会と(公財)全日本軟式野球連盟主催「高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会」への重複参加は認められない。]
(注)により重複した場合は2位チームが近畿ブロック予選大会に出場する。
ただし、和歌山県にて近畿大会が開催される前年と開催年は2チーム出場となるため2位と3位のチームが出場する。
- ②. 大会における2位・3位チームは近畿ブロックスポーツ少年団軟式野球交流大会に出場する。
ただし、1位チームが高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会と重複した場合は、1位と3位チームが出場する。
ただし、和歌山県にて近畿大会が開催される前年と開催年は1位と4位のチームが出場する。
上記①及び②の権利を得たチームの辞退は認めない。
- ③. ①②に準じ代表チームが決定されるが、各近畿ブロック大会参加資格(軟式野球)によりチームが10名が4年生～6年生で選手登録されていないチームが代表権を得た場合は①②の大会出場は認められない。
注: 出場資格不適合の代替えチームについては、2回戦敗退(準々決勝)チームで上位チームに敗退した順位より選考する。

※その他

本規則は全国スポーツ少年団軟式野球交流大会実施要綱(10)参加資格及び平成26年度和歌山県学童部特別規則に準じて作成したものである。

- 平成24年3月13日出場チーム確認事項を追加施行する。
- 平成24年7月7日出場チーム確認事項を改訂施行する。
- 平成26年3月16日投手の投球制限を改訂追加施行する。
- 平成24年3月25日投手の投球制限を追加施行する。
- 平成25年3月1日出場チーム確認事項を改訂(近畿大会要項改訂)施行する。

- 令和3年3月20日投手の投球制限を改訂施行する。
- 令和4年1月学童野球大会ルール改訂に伴い一部を改訂施行する。
- 令和6年3月31日ルール改訂に伴い*6をついかしこうする。

※出場チーム確認事項③を追加施行する。